

はじめに

平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。未曾有の大災害は、私たちの心にも大きな爪痕を残しました。子どもは、恐怖や悲しみ、喪失感などを言葉で表現することができず、心のなかに閉じ込めてしまいがちです。このような状況の中、子どもにとって、自分の好きな本を読んでもらうことは、読んでくれる人のぬくもりを感じて不安から心を解き放し、おはなしによって世界を広げ、新たな一步を踏み出す力を与えてくれるでしょう。

子どもにとって読書は、豊かな言葉を獲得し、想像力を高め、感性を磨き、表現力、考える力を育て、創造性を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。現代に生きる子どもは、テレビなどのメディアや、パソコン、携帯電話などのさまざまな情報機器に囲まれ、あふれる情報の中で、自ら考え判断し、情報を活用して、主体的に生きてゆく必要があります。また、かつては遊びの中で育まれていた、想像力や思いやりの気持ちが、子どもの生活環境の変化により、育ちにくくなっているのではないのでしょうか。このような環境の中で、読書のもつ意義はさらに重要だと考えます。

多摩市教育委員会では、平成18年11月に「多摩市子どもの読書活動推進計画」(第一次)を策定し、家庭、学校、地域等あらゆる場所で、子どもが積極的に読書活動を行えるような環境づくりを目指してきました。今回、第一次計画での成果や課題を踏まえ、計画の見直しを図り、「第二次多摩市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。地域、関係機関等と力を合わせ第一次計画で掲げていた「すべての子どもに読書のよろこびを」を継承・発展させ、すべての子どもが、本の世界の楽しさ、すばらしさを体験し、読書のよろこびを感じ、豊かな心を育み、未来への可能性を広げられるよう望んでいます。多摩市教育委員会が進めるESD(持続発展教育)の視点も踏まえ、第二次計画の実行に努めてまいります。

最後に、この計画策定にあたり、ご尽力いただきました第二次子どもの読書活動推進計画策定市民連絡会議にご参加いただいた委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました市民の皆様に、心よりお礼申し上げます。

平成24年2月

多摩市教育委員会